

第1学年 組 生活科学習指導案

指導者

小学校

1. 単元名 「みんなだいすき」

2. 指導観

(1) 児童観

本学級の子どもたちは、係活動や給食当番の仕事にいつも一生懸命に取り組み、自分の役割を少しずつ理解してきている。お手伝いが好きな子が多く、1学期に係の仕事がまだ決まっていなかった頃は「プリント配りたいです」「黒板消してもいい」と教師に言うこともよくあった。また、困っている友だちがいると優しく声をかけたり、手伝ってあげたりなど、人の役に立つことを進んでやっている児童が多い。道徳の学習で出てきた「助け合い」という言葉が好きで、よく使っている。

夏休みには、本単元の学習をふまえて、宿題として「家の仕事」に取り組ませた。「お手伝い」ではなく、「仕事」である。子どもにとっての「お手伝い」は責任を伴うものではなく、都合でやったり、やらなかったりしてもいいものである。家族のために責任をもって働いて欲しいという願いから「家での仕事」とした。子どもたちに入学前に家のお手伝いをしていたかを尋ねると、約3分の1の子どもたちが経験していた。内容は、「食器洗い」「お風呂洗い」「洗濯物たたみ」があがった。小学校に入学してから経験したことがあるお手伝いは、「米とぎ」「お風呂洗い」「布団敷き」「布団上げ」「お皿洗い」「料理」であった。現在決まったお手伝いをしている子どもは、4分の1いた。

学校で人の役に立つことを進んでやる児童は多い。しかし、家庭ではなかなか積極的に手伝ってくれないという声も7月に行われた個人懇談の時に聞かれた。学校では積極的にしてくれるが、自分から働きかけたり、家族のことを意識しながらお手伝いをしている子どもは少ない。また、多くの子どもたちは、家族生活を支えている家族や家庭のよさを感じたり、自分が家族のために家庭でできることがあったりすることには、あまり気付いていない。手伝いたい、人の役に立ちたいという気持ちを認め、達成感を味わわせ、自分のよさや自分の成長に気付かせていく必要がある。

(2) 教材観

本教材では、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする」を扱う。ここでは、普段の生活の中で家族にしてもらっていることを振り返り、自分でできることを考え、家族のために「かぞくにこにこだいさくせん」の実践を行う。

「かぞくにこにこだいさくせん」とは、家族がにこにこになるように、子どもたちが家族のために「家の仕事」を実践することである。「家の仕事」とは、「お手伝い」のことである。しかし、上記の児童観でも触れているが、家族の一員として責任をもって働いて欲しいという願いから、「家の仕事」とした。

本教材には、次のような価値があると考えられる。

- 家庭の仕事、家族とのふれあいなどの様々な課題設定が可能で、その中から自分にできることを選択し、家庭で実践したり、家族とかかわったりしながら、学習を進めていくことができる。
- 子どもたちの家庭での生活を、家族と自分のかかわりの視点から振り返らせ、日常生活の中で家族の大切さを感じ取らせることで、「家の仕事」を自主的に行うことができる。

- 自分から家庭への働きかけを繰り返すことで、お手伝いを楽しみながら進んで行うことができ、お家の人からのコメントや手紙から、活動してきた自分のよさや成長に気付くことができる。
- 家庭の生活や家族のことを見つめ、家族の一員として自分にできることを考え、自分の役割を果たすことで、その喜びを感じたり自信をつけたりすることができる。また、家族はお互いに支え合っていることに気付くことができる。

自分にできることを増やしていきながら、家族を、そして自分自身を見つめ直すこのような活動は、自分への自信を深め、より良い生活を創り出していこうとする子どもを育てるきっかけとなると思われる。本単元の学習を終えたとき、家族はもちろん、身の回りの人まで「みんなだいすき」と思えるような子どもにしていきたい。

(3) 方法観

子どもたちは、家庭生活の中に活動場面が設定されている学習は初めてである。そのため、家庭にまで継続されるような意欲付けや興味付けが特に必要となってくる。家庭での取り組みが子どもの意欲の違いとなって表れてくることも予想されるので、この学習について保護者には懇談会で説明をしたり、お便りをお願いや途中経過の報告をしたりするなど、協力と理解を得られるように努める。自分で計画を立てた「かぞくにこにこだいさくせん」を実践させ、発表や振り返りを行い、お家の人からの手紙を読むことで、家族は勿論、自分のよさや成長に気付かせていきたい。

- 「かぞくにこにこだいさくせん」で自分ができそうな仕事を考える活動へとつなげるために、お家の人が行っている「家の仕事」を短冊に一つずつ書かせる。自分がしたことがあるものとしたことがないものに分け、友だちの「これできるよ。」「難しくないよ。」という意見から、「自分にもできるかもしれない。」「やってみようかな。」という気持ちをもたせる。
- 「ともだちせんせい」に、得意な「家の仕事」のやり方を見せてもらうことで、「やってみたい。」「これならできるかもしれない。」という気持ちをもたせることができ、意欲へとつなげていく。
- やってみたい「家の仕事」を選ばせ、同じ仕事同士でグループ（1グループは多くても4人まで）を作る。そして、グループ内で「家の仕事」に挑戦させ、「速く」「きれいに」できるコツをつかませることで、「家の仕事」をより上手に行えるようになる。
- 自分たちのグループの「速く」「きれいに」やるコツを友だちに見てもらい、誉めてもらうことで、自尊感情を高めることができる。
- お家の人から、「かぞくにこにこだいさくせん」の実践後にコメントと手紙を書いてもらうことで、子どもたちに自分のよさや成長に気付かせる。
- 家族のために頑張ったという達成感や、家族の一員として自分も家族のためにできることがあるという自信をもたせ、自分のよさや成長に気付かせるために、内緒にしていたお家の人からの手紙を読ませる。

3. 単元目標

- 家族や家庭での生活に関心を持ち、自分の生活を振り返ったり、家族との関わりについて考えたりできる。〔生活への関心・意欲・態度〕
- 家族の仕事に関心を持ち、互いに支え合って生活している家族のよさを考えたり、自分ができることを進んでしたりできる。〔活動や体験についての思考・表現〕
- 家族の一員として、互いに支え合って生活している家族のよさや仕事を続けた自分のよさ、入学前の自分と比べて成長したことに気付く。〔身近な環境や自分についての気づき〕

4. 指導計画（全11時間）

過程	時	主な学習活動	指導上の留意点
つ か む	1	<p>1. 夏休みに行った「家の仕事」について発表する。</p> <div data-bbox="263 353 798 459" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな「いえのしごと」があるか、はなしあおう。</p> </div> <p>2. 日頃、お家の人にしてもらっていることを話し合う。</p> <p>3. 話し合ったことをまとめ、学習の見通しをもつ。</p> <p>※ 宿題として、家族の「家での仕事」や、お家の人にしてもらっていることを調べてくる。</p>	<p>○ 夏休み中に自分が行った「家の仕事」のことを出し合う場を設定することで、お家の仕事への関心を高める。</p> <p>○ 家族にしてもらっていることを思い出させることで、家族に助けられ、支えられて生活ができていることに気付かせる。</p> <p>○ 家族構成や家庭生活の様子に配慮する。</p> <p>○ 「家の仕事」にはどのようなものがあるか詳しく知り、自分たちが知らないところで、お家の人や家族のために「家の仕事」をしていることに気付かせるために、宿題でお家の人にどのような「家の仕事」を行っているかインタビューをさせる。</p> <p>○ 保護者には事前に、学習の目標や内容を知らせ、協力をお願いする。</p>
	2	<p>1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。</p> <div data-bbox="263 1182 798 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「いえのしごと」を、じぶんがしたことがあるものとしたことがないものにわけよう。</p> </div> <p>2. 家で調べてきたことを発表する。</p>	<p>○ 家で調べてきたことを書かせるために、短冊を多めに準備しておく。</p> <p>○ 今後の「かぞくにここにくだいさくせん」で自分ができるような仕事を考える活動へつなげるために、お家の人が行っている「家の仕事」を短冊に一つずつ書かせる。</p> <p>○ 書いた短冊を子どもたちに黒板に掲示させることで、家の仕事の多さに気付かせる。</p> <p>○ 「家の仕事」で「掃除」といっても、どこをどうやって何を使って掃除するのか、掃除をする場所によってもやり方は異なってくる。子どもたちが活動内容をよりイメージしやすくするために、教師が仕事内容を細かく分類分けをする。</p> <p>○ お家の人が行っている「家の仕事」を短冊に書かせて掲示することで、お家の人が行っていることでも『これはしたことがあるよ。』『これなら自分にもできるかもしれない。』という意見を出させや</p>

		<p>3. 「家の仕事」を、自分がしたことがあるものとしたことがないものに分ける。</p>	<p>○ 「家の仕事」を、自分がしたことがあるものとしたことがないものに分けることで、たとえたことがなくても自分にもできるかもしれないという気持ちをもたせるきっかけを作る。</p> <p>○ 小学校入学前と現在の、「家の仕事」の自分の取り組み方を比較することで、まずはここまでの成長に気付かせる。(単元の最後にも比較をさせ、更に成長した自分に気付かせる。)</p> <p>○ 「家の仕事」をすることでお家の人はどう思うか想像させるために、「家の仕事」を自分がした時のお家の人を思い出させ、おさえる。</p> <p>○ 「かぞくにこにこだいさくせん」を行うきっかけを作るために、「家の仕事」を経験した子どもたちに、それぞれやってみてどうだったか尋ね、回りの子どもたちから「できるかもしれない。」「できそう。」「やってみようかな。」→「じゃあ、みんなで挑戦してみよう。」と、気持ちを上手く引き出させるための言葉かけをする。</p> <p>○ 「みんながお家で『家の仕事』に取り組んだらお家の人たちはどんな顔になるかな。」と尋ね、家族みんながにこにこになるために「かぞくにこにこだいさくせん」を行うことを伝える。</p> <p>○ 次時では「家の仕事」に挑戦することを伝える。そこで、授業の初めに数人の「ともだちせんせい」に自分が得意とする家の仕事を実演して披露してもらうために、「ともだちせんせい」を募集する。</p>
ふかめる	3 4	<p>1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>じぶんがやりたい「いえのしごと」をきめよう。</p> </div> <p>2. 「ともだちせんせい」に「家の仕事」のやり方を見せてもらう。</p>	<p>○ 教師は、本時で「ともだちせんせい」が実演する時に使う道具を準備しておく。</p> <p>○ 前時で書いた短冊を掲示することで、前時を想起させる。</p> <p>○ 『やってみよう』『自分にもできるかもしれない』という意欲付けのために、前時で募集した「ともだちせんせい」にみんなの前で自分が得意な「家の仕事」を実演させる。</p> <p>○ 実演を見せることで、「どうしたらそんなに上手にできるの?」という言葉子どもたちから引き出させ、「家の仕事」をより上手に行うための</p>

3. 自分がやりたい「家の仕事」を1つ決める。

5 1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。
6

「かぞくにこにこだいさくせん」をもっとじょうずにするためには、どうしたらいいのだろう。

2. 「家の仕事」に挑戦する。

3. 片づけを行う。

7 1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。
本時

10/18

ともだちのはっぴょうをみて、いいところをみつけよう。

「速く」「きれいに」という視点を明確にする。

- 全員が実演を見られるように、クラス全員の前で「ともだちせんせい」に実演させる。
- 「家の仕事」の内容によっては、場所を移動して実演させる。
- それぞれの家庭のやり方を認め、それぞれによさがあることを理解させるために、家庭によって、「家の仕事」のやり方に違いがあるということをおさえる。
- 次時では、お家の人を喜ばせるために、実際に「家の仕事」に学校で挑戦することを伝える。
- どんな「家の仕事」をやってみたいのか、子どもたちに予め聞いておき、次時までと同じ仕事ごとに分けたグループを作っておく。活動しやすくするために、1グループの人数は4人までとする。
- 意欲をもって活動をさせるために、もしも途中で違う「家の仕事」をやりたくなったら、変えてもいいことにする。

○ 『どうしたら家族みんながにこにこになるか』を再度確認し、家族のために実践することをおさえる。

○ 「家の仕事」をより上手に行えるようにするために、同じ仕事同士で分けたグループで「家の仕事」に挑戦させ、「速く」「きれいに」行えるためのコツをつかませる。

○ 次時では、「家の仕事」を、より上手に行うために、自分たちなりの「速く」「きれいに」やるコツを盛り込んだ「家の仕事」を、他のグループの友だちにも見てもらうことを伝える。

○ すぐに発表が始められるよう、発表の場を作っておく。

○ 発表を見る時は、「速く」「きれいに」行うコツを見つけ、それぞれのグループのいいところを探すようにさせる。

2. 友だちの発表を見る。

3. お互いの感想を言う。

8 1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。

「かぞくにこにこだいさくせん」のけいかくをたてよう。

2. 「かぞくにこにこだいさくせん」のけいかくをたてる。

3. 何の実践をするか、発表する。

※ 各家庭で「かぞくにこにこだいさくせん」の実践を行う。保護者には、事前をお願いしておく。

実践後は、ワークシートに保護者からのコメントを書いてもらう。また、それとは別に、子どもへの手紙を内緒で書いてもらう。

○ 全グループを、前半に発表するグループと後半に発表するグループとに分け、ワークショップ形式で時間を決めて全員が見て回れるようにする。

○ 「かぞくにこにこだいさくせん」の計画を立てやすくするために、ワークシートを用意する。

○ 保護者には、子どもが「かぞくにこにこだいさくせん」の実践中にできるだけ側についてもらい、『こうしたらもっとよくなるよ』といった更に上手に行えるためのアドバイスをしてもらおうよう、事前をお願いしておく。

○ 「かぞくにこにこだいさくせん」の実践後に保護者にワークシートにコメントを書いてもらうことで、達成感を味わわせ、子どもたちの自尊感情を高めるのと同時に、家族のために実践を続けた自分のよさにも気付かせる。

○ この單元では、自分のよさや成長に気付くことが目的なので、保護者には、コメントに子どもが読んで嬉しくなるようなことを書くようお願いしておく。例えば、保護者のコメントは、「ありがとう」「助かったよ。」といった感謝の言葉や、楽しさや喜びを共感した言葉、ほめたり励ましたりするような言葉を書いてもらう

○ お家の人に心のこもった手紙を書いてもらうことで、子どもたちに家族の温かさや大切さ、家族の一員として役に立っていることを実感させる。

○ 自分の成長に気付かせるために、保護者の手紙には、小学校入学前と比べて子どもたちが成長したところについて書いてもらう。

ま と め る	9 10	<p>1. 「かぞくにこにこだいさくせん」を実践して感じたことや気づきを話し合う。</p> <div data-bbox="263 304 798 414" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おうちのひとにはっぴょうするためのじゅんぴをしよう。</p> </div> <p>2. お家の人に発表するための準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の実践を振り返り、お家の人への発表会へとつなげるために、実践して感じたことや気付いたことを発表させる。 ○ 自分の達成感を高めたり、自信を持ったりできるように、お家の人からのコメントを読ませる。 ○ 家族のために行った自分の実践を振り返り、自分ができるようになったこと、自分のいいところを発表するために、準備をする。 ○ 発表は、同じ仕事同士のグループで行わせる。 ○ 自信をもって発表ができるように、何回も練習をさせる。
	11	<p>1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。</p> <p>2. グループで発表をする。</p> <div data-bbox="263 985 798 1142" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「かぞくにこにこだいさくせん」をふりかえって、おうちのひとにはっぴょうしよう。</p> </div> <div data-bbox="375 1164 638 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>発表すること ・ 取り組んだ内容 ・ 家族の反応 ・ できるようになった ことや成長したところ</p> </div> <p>3. お家の人からの手紙を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの発表を、より多くの保護者に見てもらうために、11月の学校公開日に合わせて授業を行う。 ○ すぐに発表を始められるように、授業前に机と椅子を動かし、発表の場作りを行っておく。 ○ 保護者には、子どもたちの発表を自由に見てもらう。 ○ 声の大きさに気を付けることをおさえる。 ○ 家族のために頑張ったという達成感や、家族のためにできることがあるという自信をもたせ、自分のよさや成長に気付かせるために、内緒にしていたお家の人からの手紙を渡し、読ませる。

5. 本時 平成22年10月 日() 校時 家庭科室

6. 本時の目標

- グループごとに「家の仕事」を発表し、上手にできるためのコツを分かり易く友だちに伝えることができる。
- 友だちの「家の仕事」のやり方を見て、いいところを見つけることができる。

7. 本時学習の考え方

本時は、11時間の指導時間のうちの7時間目であり、「かぞくにこにこだいさくせん」を行う前に友だち同士で「家の仕事」のやり方を見合い、お互いにアドバイスをもらいながら更に上手に行えるようになることをねらいとしている。

子どもたちは5・6時間目に、同じ仕事同士のグループ内で、「家の仕事」をより上手に行うための「速く」「きれいに」やるコツを、実際にやってみることでつかんでいる。このグループは、3・4時間目の最後に子どもたちに自分がやりたい「家の仕事」を選ばせた後で、1グループの人数が多くても4人までとなるよう教師が作ったものである。本時では、そのグループで実演することで、「速く」「きれいに」やるコツを友だちに見てもらおう。同じ仕事同士で、前半に発表するグループと後半に発表するグループとに分け、ワークショップ形式で時間を決めて全員が見て回れるようにする。

発表を見る時は、「発表チェックカード」を各自持たせてまわらせるようにする。こうすることで、「発表を見る時のポイント」「速く」「きれいに」「もっとこうの方がいい」を意識し続けながら見ることができる。「速く」「きれいに」「もっとこうの方がいい」を見つけた時には、自分でシールを貼らせる。シール集めに夢中になってしまわないように、授業の初めに確認しておく。

授業の最後に、友だちの発表を見ての感想を言わせる。この時に、「〇〇班の～が良かった」「〇〇班の～のやり方は早くできそう」「もっとこうの方がきれいにできるよ」など、それぞれのグループの「速く」「きれいに」行うコツや仕事のやり方でいいところを言わせたり、もっと上手に行うためのアドバイスをさせたりする。そうすることで、子どもたちはこれから実践する「かぞくにこにこだいさくせん」をより上手に行えるようになり、また、友だちに誉めてもらうことで自尊感情を高めることができる。友だちから誉めてもらったところや、アドバイスをもらったところを、今後の「かぞくにこにこだいさくせん」で生かしていけるようにさせたい。

8. 準備 発表で使う道具(詳細は下)・シール・発表チェックカード

発表で使う道具・・・教師が準備するもの

- 洗濯物たたみ：洗濯物(Tシャツ、パジャマ、靴下、ズボン、タオル、ジャージ)・ゴザ
- 洗濯：洗い桶・洗剤・物干し竿・台拭き雑巾
- 食器洗い：汚れた食器・食器用洗剤・スポンジ・おぼん
- 食器拭き：ふきん
- 玄関掃除：ほうき・ちりとり・ゴミ箱・台
- 靴ならべ：靴
- 米とぎ：米・計量カップ・米とぎ用のボウル・台拭き雑巾・米を入れるボウル
- 布団たたみ：布団一式(敷き布団、掛け布団、毛布、枕)・畳
- 台拭き：洗面器・ふきん

子どもが準備するもの

- 洗濯物・エプロン・床拭き用雑巾
- エプロン・床拭き用雑巾
- 靴
- エプロン・床拭き用雑巾

9. 本時の展開 (7 / 11)

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1. 前時までの学習を想起し、めあての確認をする。</p> <div data-bbox="137 338 557 450" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ともだちのはっぴょうをみて、いいところを見つけよう。</p> </div> <p>2. 友だちの発表を見る。</p> <div data-bbox="161 555 541 931" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>前半の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物たたみ：3人 ・洗濯：2人 ・食器洗い：4人 ・玄関掃除：1人 ・靴ならべ：1人 ・米とぎ：4人 </div> <div data-bbox="161 972 541 1348" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>後半の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物たたみ：3人 ・洗濯：2人 ・食器拭き：2人 ・台拭き：1人 ・布団たたみ：2人 ・米とぎ：4人 </div> <p>3. お互いの感想を言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師は前もって、発表の時に使う道具の準備をしておく。 ○ すぐに発表が始められるよう、発表の場を作っておく。 ○ 発表を見る時は、「速く」「きれいに」行うコツを見つけ、それぞれのグループのいいところを探すようにさせる。 ○ 本時までには、同じ仕事ごとに分けたグループを作っておく。活動しやすくするために、1グループの人数は4人までとする。 ○ やりたい仕事を決めるときに同じ仕事を選ぶ子がたくさんいた場合は、同じ仕事のグループをいくつか作る。(例えば食器拭きを7人の子が選んでいたなら、3人と4人のグループに分ける、など。) 同じ仕事のグループが複数ある場合は、必ず、前半の発表と後半の発表に分けて、発表をずらすようにしておく。そうすることで、同じ仕事同士で自分たちのやり方を比べてアドバイスが言えたり、自分のグループにはないいいところを見つけたりすることができる。 ○ 全グループを、前半に発表するグループと後半に発表するグループとに分け、ワークショップ形式で時間を決めて全員が見てまわれるようにする。 ○ 「速く」「きれいに」やるコツが伝わりやすいように、実演形式で発表させる。 ○ 子どもたちには「発表チェックカード」を持たせる。後半に発表をする子は前半の発表を、前半に発表する子は後半の発表を見ながら、「はやく」「きれいに」「もっとこうしたほうがいい」ところを見つけた時にだけ自分でシールを貼らせることで、発表を見る時のポイントを意識しながらまわれるようにする。 ○ 発表を見る時のポイントに気を付けながら見させることで、視点をもって最後まで集中して見ることができる。 <div data-bbox="592 1507 1254 1715" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発表を見る時のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「速く」「きれいに」できるコツは何かを探しながら見る。 ・「家の仕事」のやり方で、もっとこうした方がいいと思うところを探しながら見る。 </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">授業の最後に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 後半のグループの発表が終わった後で、本時の感想を言わせる。この時に、他のグループの「速く」「きれいに」できるコツや、仕事のやり方でもっとこうした方がいいところを言わせる。こうすることで、これから実践する「かぞくにこにこだいさくせん」をより上手に行えるようになり、また、友だちに誉めてもらうことで自尊心を高めることができる。